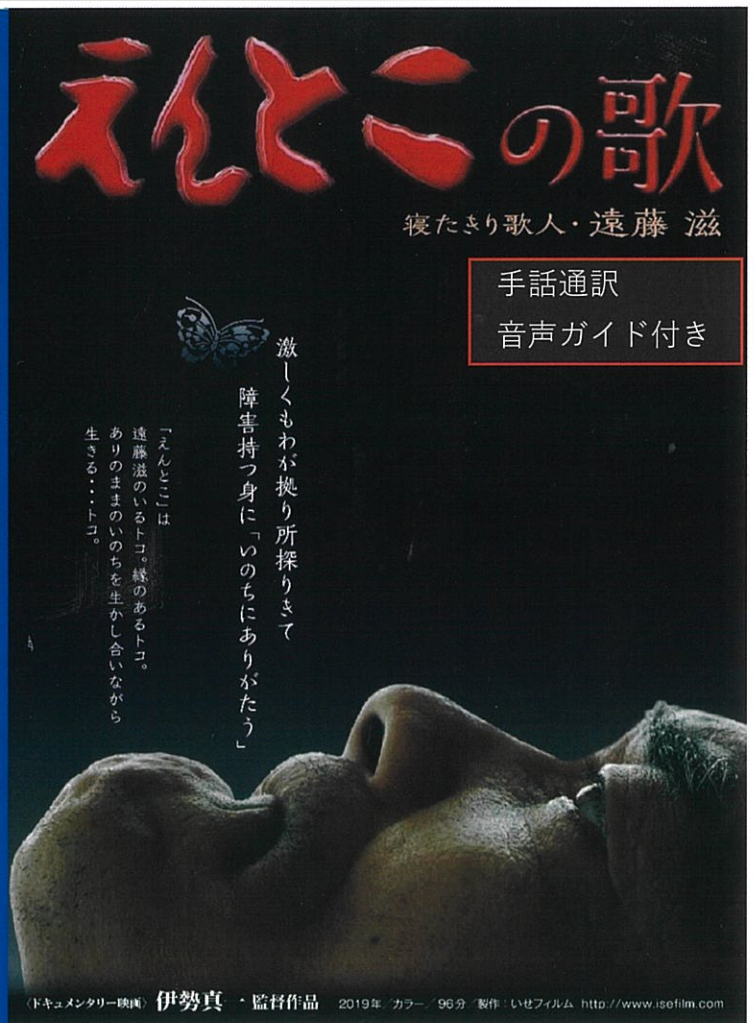


第九回烏山UD映画祭

長年、梅が丘でお過ごしになられた遠藤滋さん、今年の5月に75歳でお亡くなりになりました。その彼の主演映画「えんとこ」は1999年、「えんとこの歌」は2019年公開の先品です。その間に20年の歳月が流れています。当初は、「えんとこの歌」のみの上映会を開催を考えていました。しかし、「えんとこ」を見て、どうしても二本立ての開催にこだわりました。二本の映画の中に流れている20年間の時間の流れを通して遠藤氏の生きる力に感動したからです。梅が丘に生き、亡くなられた遠藤さんのこの二本の映画から「生きる力」の大切さを学びと同時に、皆様と「生きる力」に関してお話し出来ればと思いました。いま、命の軽んじられている時だからこそです。



上映日：2022年11月23日（水曜日(祝)）
上映開場：コミュニティカフェ「ななつのこ」（裏面参照）
開場：12時30分開場
上映開始：「えんとこ」 13時00分～14時30分
「えんとこの歌」 14時45分～16時21分
お話しの会：伊勢監督と主演の遠藤滋氏のお身内をお迎えし16時30分頃より開催します。

会費（二本分、一本の場合は半分です）
一般：2,000円
シニア・未成人・障害者：1,000円
定員：30名（完全予約制）
問合せ・申込先：稲田信之
fwjc7125@nifty.com
（当日の緊急連絡先：080-1133-4192）



映画祭開催趣旨

誰もがお互いを知り、認め合うことって大事なことだと思います。住んでいる街の居心地がほんのちょっと良くなるかも知れません。どの街にも色々な個性を持つ沢山の誰かがいます。映画を通してそんな誰かのことを知ってもらえたらと思い映画祭を企画しました。

えんとこ



監督 伊勢 真一

主演：遠藤 滋と介助者の皆様

企画・制作：映画「えんとこ」制作委員会
一隅社／クロスフィット

東京・世田谷区梅ヶ丘の住宅街にある、ごくありふれたマンションの一室2DKが、遠藤滋と介助の若者たちの拠点。遠藤の居るところであり、縁のあるところでもある、〈えんとこ〉は、日々の営みのかたわら、定期的な通信の発行、本の出版、映画の上映、障害者が街で暮らすための調査活動など、さまざまな試みの中心となっている。

〈えんとこ〉は小さな学校、ユニークな会社、サークルの部屋に似ていなくもない。それは、遠藤を中心にした心と体のネットワークでもある。

えんとこの歌



監督 伊勢 真一

主演：遠藤 滋と介助者の皆様

短歌 朗読：友部正人

企画・制作：いせフィルム

寝たきり歌人・遠藤 滋

「激しくもわが抛り所探りきて

障害持つ身にいのちにありがたう」

寝たきり歌人、遠藤滋は伊勢監督の学生時代の友人。脳性マヒで寝たきりの生活を強いられながら、介助の若者たちと過ごす「えんとこ」での35年間におよぶ記録。遠藤さんは50代後半から短歌を詠むようになり、心の叫びを言葉に託す日々を送る。ありのままのいのちを生かし合いながら生きる姿を追う。

1947年5月 静岡県に生まれる。仮死状態で生まれ、1才の頃、脳性マヒと診断される。

1974年3月 立教大学文学部卒業。都立光明養護学校に、教員として採用され、職場での差別と闘いながら、小田急線・梅ヶ丘駅に車椅子用スロープをつける運動に関わったり、世田谷区に対して、介護人派遣制度の改善を求める運動を始めるなど、地域の障害者活動に積極的に参加する。

1985年7月『だから人間なんだ』を友人と自主出版。この本づくりが、ありのままの命を祝福し、命を生かし合うことを、自己決定して生きるきっかけとなる。

1991年～まったく寝たきりの状態となる。〈えんとこ〉の場で、介助者のネットワークを組織、独り暮らしが始まる。

共催：からすやま地域の力を集める会「シネマ部会」

まちづくりデイ実行委員会

後援：世田谷区、世田谷区社会福祉協議会

烏山駅前通り商店街振興組合

協力：烏山ネット・わあ〜く・ショップ、

(株)まちづくりステーション、(一社)Decoboko

昭和大学付属烏山病院 患者家族会「あかね会」

世田谷福祉まちづくり研究会



コミュニティカフェ ななつのこ

157-0062

東京都世田谷区南烏山6丁目12-12 コーシャハイム千歳烏山12号棟1F